
平成 30 年

9 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

新たなブランドづくり

東濃農林■アスパラガス 先進地視察（揖斐アスパラガス部会）を実施

農業普及課では、新たなブランド創出支援事業の取り組みとして、9月25日、アスパラガスの先進地視察を実施した。視察には東濃アスパラガス研究会員の他、アスパラガスの導入を検討している農家等、計10名が参加し、揖斐アスパラガス部会の協力で、生産者から部会の活動や栽培の様子をうかがった。

定植後10年以上経過した株から安定した収量を得ている状況や、東濃地域とは異なる肥培管理など、参考となることも多く、参加者間で積極的に意見交換も行われた。また、参加者からは、売り先に応じたアイテムづくりなどで今後の参考にしたいとの声も聞かれた。

農業普及課では、今後も栽培研修などを通して、東濃地域のアスパラガス栽培を支援し、産地育成を促進していく。



【ほ場視察の様子】

下呂農林■エゴマ 栽培地拡大を目指し、地区別の開花期を調査

下呂市では、飛騨小坂あぶらえ生産組合を中心に「あぶらえ（エゴマ）」栽培と東京オリパラを見据えた加工品の開発に取り組んでいる。

しかし、エゴマは収穫適期が短く、また播種・移植時期を変えても収穫期は変わらず、これが産地を拡大する上で大きな課題となっている。

そこで、農業普及課では、南北に長く標高に差がある下呂市の特徴を生かして、栽培地を分散することで収穫適期をずらすことができないか、本年度、小坂地区と金山地区での栽培試験を行った。

今後は、如何に作業を分散できるか、収穫適期の分析などを行い、栽培地拡大に向けた取り組みを推進する。



【エゴマの開花】

郡上農林■鉢花 ゼラニウム『ホホワイト トゥローズ』出荷開始！！

郡上花き園芸組合では、4年前からゼラニウム「ホホワイト トゥローズ」の秋期栽培に取り組んでおり、9月下旬から10月下旬にかけて出荷が行われている。今年で4回目の出荷を迎え市場での評価も高まっており、予約注文が増えている。

農業普及課では、今年度から新技術導入普及支援事業を活用し、郡上地域における栽培マニュアルの確立に取り組んでいる。今年は生産者と連携し生育・排水調査で生産状況を把握し、調査データを生産者間で共有する事により一層の安定・高品質生産へと繋げてきた。

また、以前から問題となっている葉に現れる生育障害に対処するため、農業経営課および農業技術センター土壌化学部から助言を得て、栽培管理方法の見直しをすることができた。

今後も農業普及課は各種調査を継続しながら、適期に仕上げ管理を行うよう指導してゆくと共に、今年の栽培で顕在化した課題について生産者と協力して対策を検討する。



【出荷を待つゼラニウム】

多様な担い手づくり

岐阜農林■いちご 就農支援会議開催

9月28日、JA全農岐阜いちご新規就農者研修所において、各務原市に就農予定の研修生1名と関係機関が出席し、就農支援会議を開催した。

JAぎふからは就農地の交渉状況、各務原市からは補助事業など各種制度、農業普及課からは就農計画の作成について説明を行った。

各務原市では、3年続いて毎年1名ずつがいちごで就農しており、農業普及課では、新たな産地づくりにつながるよう、関係機関と連携し、就農準備や定着に向けて支援していく予定である。



【就農支援会議の様子】

西濃農林■西濃就農応援隊 新規就農者意見交換会を開催～You' ll never walk alone～

農業普及課は、9月21日に西濃就農応援隊が主催する「新規就農者意見交換会」の開催を支援した。就農支援交換会は海津市役所において開催され、県就農支援センター修了生を含む新規就農者18名をはじめとする75名が出席した。

新規就農者4人によるパネルトークでは、就農後の経営状況や課題、関係機関に期待すること、これから農業を目指す人へのメッセージなどが発表され、出席者との意見交換も行われた。その中で、目標収穫量を達成するための方法、気象災害及び停電といった突発的な事案

に対する備えなどについて、真剣な議論がなされた。また、担い手リーダー（指導農業士、青年農業士、女性農業経営アドバイザー）からの活動紹介や応援メッセージの報告もなされた。



【パネルトークの様子】

中濃農林■新規就農者・雇用就農者 経営安定に向けた支援

農業普及課では、経営開始5年目までの新規就農者をフォローアップ対象者に位置づけ、定期巡回、個別相談による重点支援を行うとともに、農業法人などに新規雇用された就農者への技術支援も行っている。

今年度は16名を対象に、これまでに、延べ45回の経営安定に向けた支援（栽培研修会、現地相談、先進農家視察、就農計画作成支援など）を実施した。また、新規雇用就農者には「中濃地域農業担い手・就農応援隊交流会」への参加誘導、先進地視察などにより、知識向上を図った。

新規就農者の経営安定、農業雇用定着を目指し、今後も一人一人に寄り添った支援を実施する。



【ほ場での経営状況相談】

飛騨農林■ほうれんそう ほうれんそうにおける農福連携

飛騨ほうれんそう産地では、調製作業に多くの人手を必要とするため、労働力の確保が大きな課題となっている。その解決方法の一つとして、農福連携が挙げられている。

農業普及課では、（一社）岐阜県農畜産公社（ぎふアグリチャレンジ支援センター）と協力して、地域の福祉事業所や農福連携に関心のある農家等を訪問し、農福連携に関する情報収集や相談を行った。

そして、各関係機関等との連携や相談の結果、上記センターの事業「障がい者農の雇用モデル支援事業（受入体験助成）」を活用し、実際に農福連携に関心のある農家に、一定期間障がい者の受入れ体験を実施してもらうこととなった。

農業普及課では、今後も受入れ体験の実施における支援や関係機関との連携を行い、産地の課題解決及び農福連携の推進を行っていく。



【受入体験に向けての打合せの様子】

革新支援センター■若手農業女性 **ぎふ農業女性次世代リーダー育成塾開催**

9月20日及び同28日に、第1回ぎふ農業女性次世代リーダー育成塾を、岐阜市と多治見市で実施した。同塾は平成28年度から実施しており今年度で3年目となる。この塾では、農業経営に関する基礎的な知識を2日間（2回）の講座で学ぶ。

両会場で11名が参加し、マーケティングやビジネスプランについて、中小企業診断士で社会保険労務士から講義を受けた。演習では、事例をもとにしたSWOT分析をグループに分かれて行い、その後実際の経営展開を考察した。

第2回は、10月に労務管理等について知識を深める予定である。



【グループワークの様子】

売れるブランドづくり

可茂農林■水稲 **良食味米生産に向けて**

白川地区の水稲収穫は8月下旬から開始したが、9月に入ってから降雨が続き、刈取りが予定より遅れている。今年度は出穂期以降も高温が続き、白川町・東白川村でも平均気温が27℃を超えるなど品質低下が心配されたが、白未熟粒の発生も少なく、ほぼ1等となった。

今年度は米・食味鑑定士協会主催の米・食味分析鑑定コンクールが11月に高山市で開催される予定である。各営農組合では、コンクール出品に向けてケイ酸資材を投入するなど、出品を契機に良食味米生産の取り組みが進んでいる。

農業普及課では、引き続き良食味米生産に向けた支援を継続していく。



【良食味米生産ほ場】

恵那農林■トマト **独立ポット耕栽培現地実証試験から普及へ**

農業普及課は、中山間農業研究所と連携して、独立ポット耕栽培の現地実証を支援している。一昨年からの実証ほに加え、今年度は新たに4か所の実証ほを加え、土壌病害の回避と単収20tを目標に支援を行っている。今年は酷暑でトマトの重要病害である青枯病の発生しやすい状況であったが、4か所の実証ほでの被害はほとんど見られなかった。また、8月末時点の単収は11~14t/10aと管内平均4.7tを大きく上回る結果であった。

農業普及課では、今後も中山間農業研究所と連携して、土壌病害対策及び収益向上の有望な手段として、地域での普及を推進していく予定である。



【ポット耕栽培の状況】

揖斐農林■茶 **GAP内部点検の説明会を開催**

岐阜県GAPの取り組みを始めている（農）美濃いび茶宮地生産組合では、団体で確認を受けるため、全構成員に対して内部点検を実施する必要がある。9月23日に理事を対象に、内部点検説明会を開催した。岐阜県GAP確認基準の各項目を確認しながら、点検ポイントを説明した。また、組合長の倉庫において、農薬・肥料等の資材や摘採機等の機械の保管方法や農薬の散布後の洗浄場所等、実際に現場で確認しながら改善点などを指導した。次回は、全構成員を対象に、自己点検、内部点検等の説明会を開催し、岐阜県GAPの確認認証に向け取り組みを進めていく。



【現場での説明の様子】